

## わたしのとけい

渡邊<sup>わたなべ</sup>真由<sup>まゆ</sup>

「あと五ふんよ」

あそんでいるときに、いつもいわれます。レゴでおしるをつくっていたところだったのに。でも、はやくしゅくだいをはじめないと、どんどんたまってしまいます。

「あと五ふんで、かたづけて」

おへやがちらかっているときに、いわれます。またあそぶのだから、このままでいいのに。でもこのままだとおもちゃだらけになって、あるくこともできなくなります。

「あと五ふんでねるようお願いをしてね」

おふろとゆうしょくがおわって、のんびりしていたらたいへん。八じにねないと、せがのびなくなるらしい。

わたしのおかあさんは、「とけい」みたい。いつもわたしのために、さきのこととかんがえてこえをかけてくれます。まいにちのことなのに、じぶんでは、なかなかできません。

それで、しょうがくせいになったときに、とけいをおもったことがあります。まわりがきでできていて、はつきりとすうじが書いてあります。オレンジのはりがみやすいです。わたしのへ

やのかべにかけているので、がっこうにいくじかんやピアノのじかんをわかっていなければなりません。きをつけてみていたら、だんだんじかんがよめるようになりました。

このまえ、ひとりでおるすばんをしました。いもうとのおけいこのために、おかあさんがでかけました。しばらくテレビをみてあそんでから、三じにおやつにしました。それから、ほんをよんでいました。ひとりているのはさびしいかなとおもったけれど、じぶんでじかんをみながらは、たのしかったです。じかんにおいかけれないかんじがしました。

このさくぶんをかいていて、いままでのおかあさんはいへんだったとよくわかりました。はじめておれいをいいたいとおもいます。ありがとうございます。

これから「わたしのとけい」は、「おかあさん」から、わたしのへやの「かけどけい」にかわっていきます。おかあさんのいそがしいときは、わたしがおかあさんの「とけい」になっていきたいとおもいます。